

# 豊前市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：26,160人 ■市域面積：111.10km<sup>2</sup>  
■担当課：豊前市教育委員会生涯学習課（平成31年3月現在）



かつて「豊国」と呼ばれた豊前地域は、原始より人々の営みの足跡をたどることができる。瀬戸内海や、宇佐神宮に通じる古代官道により交通の要衝として発展し、また求菩提山を中心とする修験道文化を育んできた。近代以降は宇島港を中心に産業の振興が図られ、昭和30年（1955）に豊前市が成立した。こうした歴史的な変遷の中で生まれた多様な文化財を歴史遺産群として総合的な保存活用を図っていく。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

宇佐神宮への道、求菩提山と修験道、中津街道、  
瀬戸内海への出発点・宇島港、幕末の千束藩

### 課題

- ・高齢化、人口減少による文化財の維持と後継者の問題
- ・更なる活用と、活用に携わる人材の育成

### 保存活用方針

- ・地域の文化財を把握して保護に活かす
- ・地域の文化財の特性を活かして整備する
- ・文化財を次世代に継承する
- ・地域の文化財を活用する

## 保存活用のための取り組み

### 地域の文化財を把握して保護に 生かす取り組み

市内の文化財について情報を総合的に把握し、それぞれの現状や課題、保護対策や活用の方向性を把握するための文化財カルテを作成、データベース化の推進を図る。また、史跡ガイドボランティアや地元保存団体と連携して文化財パトロール等協力体制を構築する。



### 文化財の特性を活かして整備する 取り組み

「求菩提山」に係る地域では史跡および農村景観の計画的な整備・保存を実施しているが、その他の文化財についても方針を検討し、周辺環境と共に整備する。地域内や他の地域をつなぐ散策・回遊ルートを設置、解説サインや紹介サイトなどの整備を行う。



### 文化財を次世代に継承する取 組み

伝統芸能では既に「豊前神楽」での子供神楽など次世代への継承を図る取り組みが行われている。有形文化財の保存継承も含めてこうした文化財の保存・活用に関係する団体と行政が連携し、保存計画の検討や人材育成を支援する。

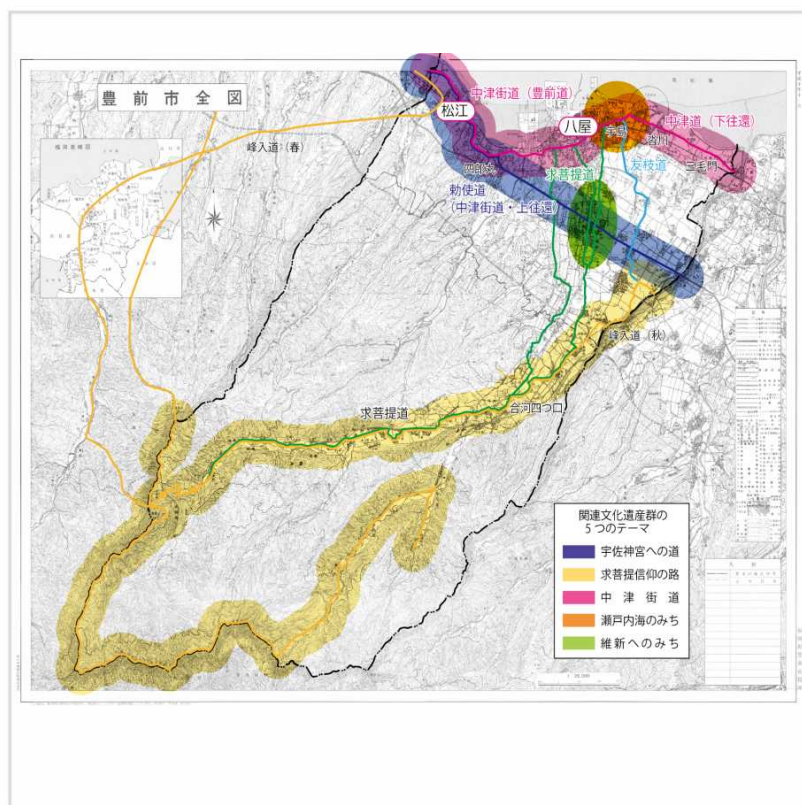


### 地域の文化財を活用する取 組み

関連文化財群について広く市民に周知するために文化財を活かす学校教育・生涯学習プログラムの検討や学びの場としての求菩提資料館、埋蔵文化財センター等の利活用の向上を図る。道の駅や各地区の観光施設を含め情報の収集・効果的な発信などの連携を図る。



## ◆ 関連文化財群と歴史文化保存活用地区



豊前市の歴史で重要な5つのテーマによる関連文化財群の構成要素の場所を元に、計5ゾーンの保存活用区域を設定する。勅使街道に沿い八幡信仰と深く関わる宇佐神宮への道ゾーン、求菩提山参詣の道を辿り伝統芸能などに修験道文化が息づく求菩提信仰の路ゾーン、近世の小倉～中津の交流を辿る中津街道ゾーン、近代以降の宇島港と海運で栄えた歴史を語る瀬戸内のみちゾーン、幕末～明治の千束藩の面影を残す維新のみちゾーンである。

### ストーリー

- ① 宇佐神宮への道  
－ 勅使街道－朝廷使者と八幡信仰
- ② 求菩提信仰の路  
－ 修験者を支えた路と里－
- ③ 中津街道－往来と交流－
- ④ 瀬戸内海のみち（海路の出発点宇島港）－ 地域に貢献した小今井潤治－
- ⑤ 維新へのみち  
－ 幕末に現れた千束藩と武家社会－

## ◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 市民の関心と保護意識を高める  
それぞれの関連文化財群について広く市民に周知することで、市民共有の財産である地域の歴史や貴重な文化財に対して価値の再確認がされ、郷土への誇りと愛着につながる。その結果、これまで伝承されてきた歴史文化遺産を核とした地域での自主的な保護活動が発生し、連帯感の増進と地域の活性化につながる。



② 保存・活用の充実、地域の連帯  
過去の歴史文化資源だけでなく、周辺環境と一体的に保存し活用する必要性が認識され、地域の魅力向上にもつながる。また、まちづくりや農業、観光など文化財行政だけでなく様々な分野との連携を図る必要性が認識され、地域や市内の各団体との連携強化とともに、コミュニティ再生の契機にもなる。



③ 次世代への適切な継承  
学校学習や生涯学習、保護活動への取り組み、催事への参加などを通して、歴史文化資源を後世に継承すべきものとして捉える意識の定着につながる。その結果として有形文化財の保護活動や無形文化財の後継者養成への積極的な参加など、次世代への適切な継承が進む。

